

宮崎県立高等学校入学者選抜制度の改善に関する意見聴取の結果

- 1 聴取対象 : 県立高等学校長・中等教育学校長 計 37 名 (以下、高等学校長等)
国公立中学校長・義務教育学校長、県立特別支援学校長 計 136 名
(以下、中学校長等)
- 2 回答期間 : 高等学校長等 令和 7 年 9 月 16 日～30 日
中学校長等 令和 7 年 10 月 1 日～22 日
- 3 質問項目 :

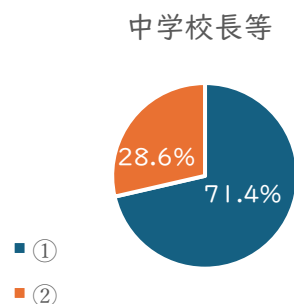
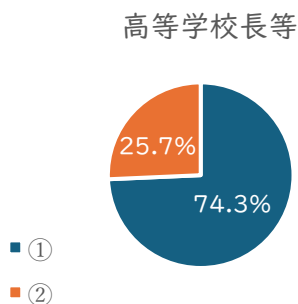
- 〈問 1〉推薦入学者選抜と一般入学者選抜の「一本化」を図ることについて
 〈問 2〉入学者選抜で、学力検査を「拡充」することについて
 〈問 3〉各校の「特色」を反映させた高等学校入学者選抜を実施することについて
 〈問 4〉「併願制」を現行より「拡充」することについて
 〈問 5〉調査書の項目を「整理」することについて
 〈問 6〉入学者選抜の改善について (全般)

〈問 1〉推薦入学者選抜と一般入学者選抜の「一本化」を図ることについて

〈問 1-1〉入学者選抜の質的改善を図るため、「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を「一本化」し、定員を一括募集することについて

- ① 一本化の方がよい
 ② 一本化しない方がよい (現行どおりがよい)

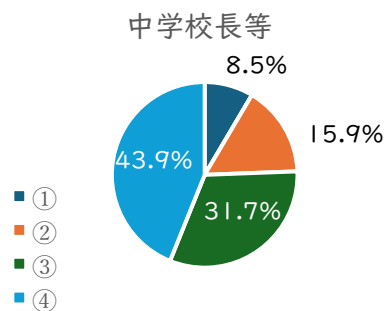
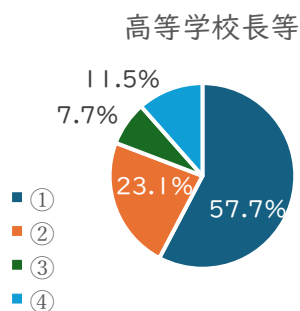
	①	②
高等学校長等	74.3%	25.7%
中学校長等	71.4%	28.6%



〈問 1-2〉一本化する場合、適切であるとする時期について

- ① 2月上旬
 ② 2月中旬
 ③ 2月下旬
 ④ 3月上旬

	①	②	③	④
高等学校長等	57.7%	23.1%	7.7%	11.5%
中学校長等	8.5%	15.9%	31.7%	43.9%



〈問１－３〉「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を「一本化」し、定員を一括募集することについての意見（概要）

高等学校長等	（期待） ・回数が減ることによる入試事務負担軽減・効率化、簡略化 ・定員確保 ・学力向上 （懸念） ・受検機会の減少 ・多様な選抜機会の喪失 ・中学校への影響 ・一括募集によるミスの誘発 （要望） ・推薦・一般のハイブリッド型のような制度設計の工夫 ・入試時期の検討（日程繰上げの方向で、私立高校入試の日程との関係も考慮しながら） ・「前期」「後期」制の導入
中学校長等	（期待） ・回数が減ることによる入試事務負担軽減・効率化、簡略化 ・学力向上 ・早期進路決定による安心感、余裕の創出 ・現行の推薦入学者選抜の課題の解消 （懸念） ・受検機会の減少 ・志願の一極集中 ・入試の画一化 ・一本化による指導や事務処理時期の集中、ミスの誘発 ・倍率の低下 （要望） ・推薦・一般のハイブリッド型のような制度設計の工夫 ・推薦と一般のどちらか一方の性質に偏るような制度設計の回避 ・各高校で実施検査の配点を柔軟に変えられるような設計 ・「前期」「後期」制の導入 ・併願制の拡充とセットにした検討 ・国や他の自治体の動向を踏まえた検討 ・一本化することの意義の整理

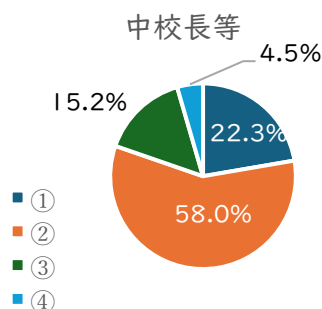
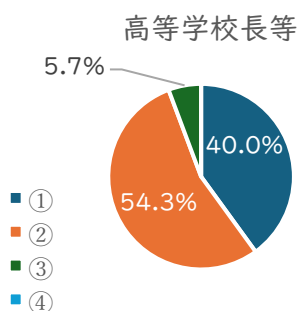
〈問２〉入学者選抜で、学力検査を「拡充」することについて

〈問２－１〉学力検査の実施の在り方について、考えに近いもの

（現行の学力検査：推薦入学者選抜（０～３教科）、一般入学者選抜（５教科））

- ① 「推薦入学者選抜」、「一般入学者選抜」ともに、現行どおりの実施
- ② 「推薦入学者選抜」では、３教科全て（国語、数学、外国語（英語））の実施
「一般入学者選抜」では、現行どおりの実施
- ③ 「推薦入学者選抜」では、現行どおりの実施
「一般入学者選抜」では、全ての高校において、５教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の学力検査を実施。ただし、学校ごとに選考資料とする教科を５教科の中から設定することを可能とする。
- ④ 「推薦入学者選抜」では、現行どおりの実施
「一般入学者選抜」では、高校ごとに、５教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の中から教科を設定し、その教科の学力検査のみを実施する。

	①	②	③	④
高等学校長等	40.0%	54.3%	5.7%	0%
中学校長等	22.3%	58.0%	15.2%	4.5%



〈問 2-2〉「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を「一本化」し、定員を一括募集する場合の学力検査の在り方について、考えに近いもの

- ① 全ての高校において、5教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の学力検査を実施し、5教科全てを選考資料とする。
- ② 全ての高校において、5教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の学力検査を実施し、5教科全てを選考資料とする。ただし、学校・学科ごとに傾斜配点の設定を可能とする。
- ③ 全ての高校において、5教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の学力検査を実施する。ただし、学校ごとに選考資料とする教科を5教科の中から設定することを可能とする。
- ④ 高校ごとに、5教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の中から教科を設定し、その教科の学力検査のみを実施する。

	①	②	③	④
高等学校長等	22.9%	74.3%	2.8%	0%
中学校長等	17.0%	67.9%	12.5%	2.6%



〈問 2-3〉入学者選抜で学力検査を「拡充」することについての意見（概要）

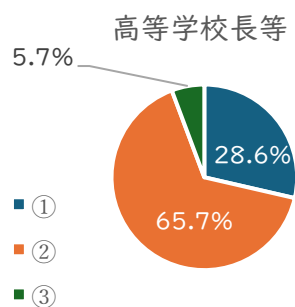
高等学校長等	（期待） ・学力向上（特に理科・社会） ・受検生の学習の取組の向上 ・学力重視のメッセージ性 ・選抜の客観的資料としての役割 （懸念） ・過度な学力重視（現行の学習指導要領との整合性） ・学力以外の要素を評価しない選抜 ・受検生への負担増加 ・私立高校を志願する生徒が増加する可能性 （要望） ・学校ごとの柔軟な対応（配点や傾斜、学力検査以外の検査とのバランス） ・学力以外を評価する検査の実施とセットにした検討 ・学力検査問題の工夫 ・受検生の経済的状況への配慮
中学校長等	（期待） ・学力向上、バランスのよい学習（特に理科・社会） ・受検生の学習の取組の向上 ・選抜の客観的資料としての役割 （懸念） ・義務教育での学びを広く測る教科の設定 ・過度な学力重視、学力偏重への傾倒 ・中学校の指導における負担の増加 （要望） ・高校ごとの柔軟な対応（配点や傾斜、実施教科） ・各高校の特色に応じた多様な学力検査の実施 ・学力以外を評価する検査の実施とセットにした検討 ・スポーツ推薦での学力検査の実施 ・5教科以外の学びを評価する検査の導入（実技やタブレットの使用等）

〈問 3〉各校の「特色」を反映させた高等学校入学者選抜を実施することについて

〈問 3-1〉学力検査に加えて、各校のスクールポリシーに基づき、各校の「特色」を反映させた「適性検査」を実施することについて、考えに近いもの（高等学校長等のみ）

- ① 全ての高校が、その高校が希望する「適性検査」を実施する
- ② 希望する高校が、その高校が希望する「適性検査」を実施する
- ③ 全ての学校が、「適性検査」を実施しない（学力検査のみでよい）

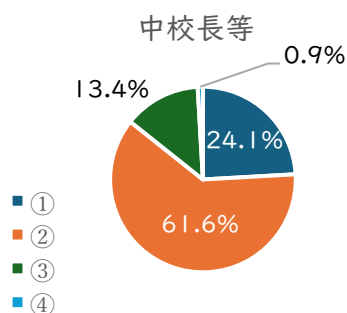
	①	②	③
高等学校長等	28.6%	65.7%	5.7%



〈問 3-1〉 学力検査に加えて、各高校のスクールポリシーに基づき、各高校の「特色」を反映させた「適性検査」を実施することについて、考えに近いもの（中学校長等のみ）

- ① 強く、実施を希望する
- ② ある程度、実施を希望する
- ③ あまり、実施を希望しない
- ④ 全く、実施を希望しない

	①	②	③	④
中学校長等	24.1%	61.6%	13.4%	0.9%



〈問 3-2〉 学力検査に加えて、各校のスクールポリシーに基づき、各校の「特色」を反映させた「適性検査」の実施内容として、考えに近いもの（複数選択可）

- ① 個人面接
- ② 集団面接
- ③ 集団討論
- ④ 作文
- ⑤ 小論文
- ⑥ プレゼンテーション（自己アピール型）
- ⑦ プレゼンテーション（課題解決型）
- ⑧ 実技（体育系、芸術系など）
- ⑨ 学校独自の学力検査
- ⑩ 英語による面接
- ⑪ その他（ ）

高等学校長等（回答者数 35／複数回答可）

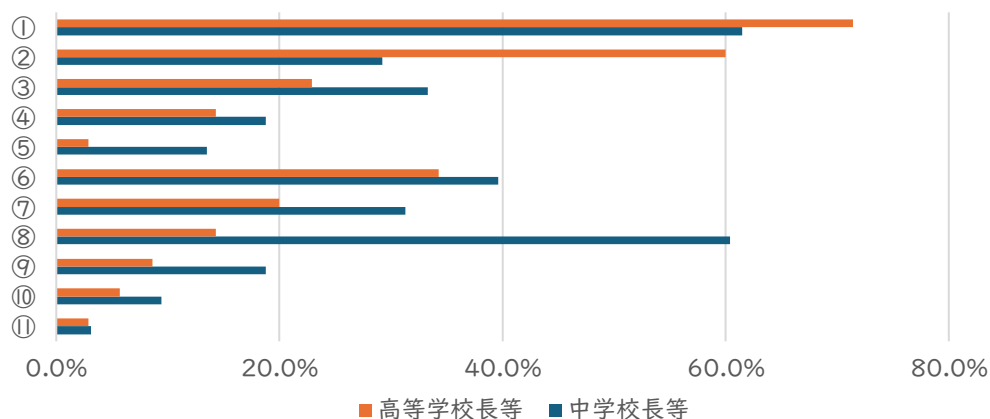
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
回答者数	25	21	8	5	1	12	7	5	3	2	1
%	71.4%	60.0%	22.9%	14.3%	2.9%	34.3%	20%	14.3%	8.6%	5.7%	2.9%

⑪その他：全ての学校が適性検査を実施しない

中学校長等（回答者数 96／複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
回答者数	59	28	32	18	13	38	30	58	18	9	3
%	61.5%	29.2%	33.3%	18.8%	13.5%	39.6%	31.3%	60.4%	18.8%	9.4%	3.1%

⑪その他：各学校の特色が反映されていれば、どれでもよい／自己表現の仕方いろいろあってよい（動画など）



〈問 3－3〉 学力検査に加えて、各校のスクールポリシーに基づき、各校の「特色」を反映させた入学者選抜を実施することについての意見（概要）

高等学校長等	（期待） ・ 多面的評価の実現 ・ 学力検査では測れない力の評価（意欲、多様な能力、より高い学力） （懸念） ・ 高校の特色化の加速 ・ 生成 AI 使用の影響を排除（事前提出したものではないものを評価） ・ 評価の客観性・公平性の担保 ・ 高校側の負担増加 ・ 中学校・受検生への負担増加 （要望） ・ 学力検査とのバランスを図る ・ 「学力検査」と「学校の特色を反映させた適性検査」両方の実施 ・ 県教育員会によるモデル・パターン等の提示
中学校長等	（期待） ・ 高校の特色化の加速 ・ 多面的評価の実現 ・ 受検生の強みを生かせる入試の実施 ・ コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の評価 （懸念） ・ 受検生の進路選択における主体性の向上 ・ 選抜の多様化による中学校と受検生への負担増加 ・ 指導内容の細分化 ・ 評価の客観性・公平性の担保 ・ 学力を軽視した特色型の検査に偏る可能性 ・ 部活動実績の過度な偏重 （要望） ・ 特色やスクールポリシーをわかりやすく反映させた検査の実施（中学校から保護者・生徒への説明が不要なように） ・ 透明性と具体性の確保 ・ 生成 AI 使用の影響を排除できる入試（受検生が事前に提出したものを評価する形式ではなく） ・ 学力検査の採点の負担軽減を図った上での検討 ・ 実施については高校側が柔軟に選択できる余地

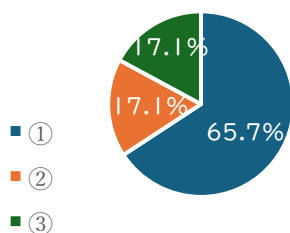
〈問 4〉「併願制」を現行より「拡充」することについて

〈問 4－1〉「推薦入学者選抜」と「一般入学者選抜」を「一本化」し、定員を一括募集する場合、「併願制」を現行より「拡充」させることについて、考えに近いもの

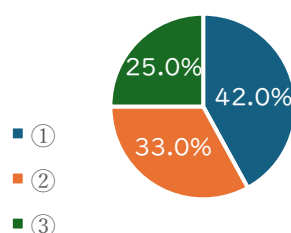
- ① 現行どおり
- ② 学校の枠を越え、大学科内で複数志願できる
- ③ 学校・大学科の枠を越え、複数志願できる

	①	②	③
高等学校長等	65.7%	17.1%	17.1%
中学校長等	42.0%	33.0%	25.0%

高等学校長等



中学校長等



〈問４－２〉「併願制」を現行より「拡充」させることについての意見（概要）

高等学校長等	(期待) ・学校のより一層の特色化の促進 ・県立高校を選択する受検生の増加 (懸念) ・高校の序列化 ・スクールポリシーに基づく選抜との乖離 ・入試業務の煩雑化・ミスの誘発 ・受検生の安易な進路選択を招く可能性 ・入学後のミスマッチ (要望) ・デジタル化を前提とした制度設計 (その他) ・現行制度への評価（既に一部併願制、二次募集の実施）
中学校長等	(期待) ・受検生の選択肢の拡大 ・受検生の受験への意欲向上 ・県立高校を選択する受検生の増加 ・普通科を志願する生徒のメリット増加 ・二次募集が不要になることによる入試の簡略化 ・学びたいこと（学科）が優先できる進路選択 (懸念) ・高校の序列化 ・志願の一極集中 ・地方の高校への影響 ・高校の特色化から逆行 ・出願手続き・確認等の煩雑化 ・受検生にとって進路選択が難しくなる ・学力ありきの選考 (要望) ・デジタル化を前提とした制度設計 (その他) ・併願制を拡充することによるメリットが不明瞭

〈問５〉調査書の項目を「整理」することについて

〈問５－１〉調査書の項目において、選抜（出願）に際して、削除しても支障ないとする項目について、考えに近いもの（複数選択可）

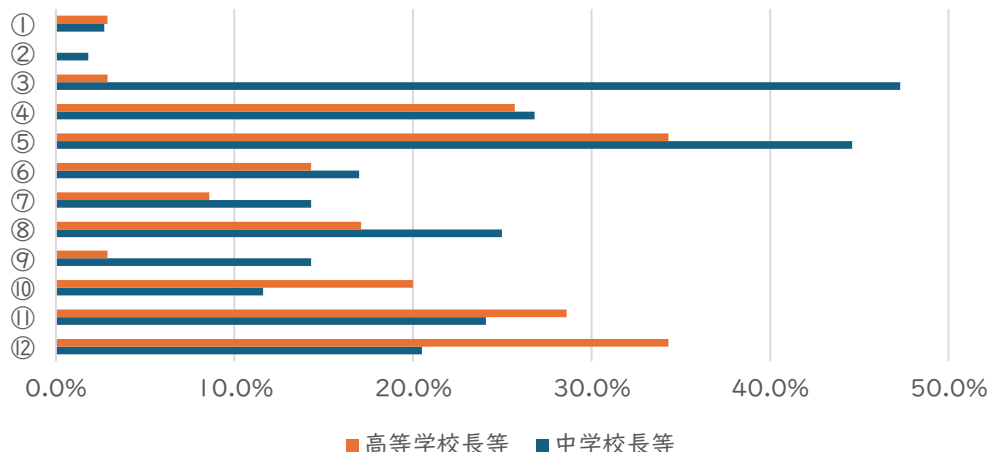
- ① 志願者について（氏名、性別、生年月日、出身中学校等、現住所）
- ② 学習の記録Ⅰ（評定、観点別学習状況）
- ③ 学習の記録Ⅱ（選択教科の評定、総合的な学習の時間の記録）
- ④ 特別活動の記録（「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の項目に○をつける）
- ⑤ 行動の記録（「基本的な生活習慣」、「思いやり・協力」等の項目に○をつける）
- ⑥ 総合所見及び指導上参考となる諸事項（記述）
- ⑦ 部活動等
- ⑧ 奉仕活動等
- ⑨ 資格・特技等
- ⑩ 出欠の記録（日数、主な理由）
- ⑪ 健康診断の記録（視力、聴力、その他）
- ⑫ 削除しても支障ない項目はない

高等学校長等（回答者数 35／複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
回答者数	1	0	1	9	12	5	3	6	1	7	10	12
%	2.9%	0%	2.9%	25.7%	34.3%	14.3%	8.6%	17.1%	2.9%	20.0%	28.6%	34.3%

中学校長等（回答者数 112／複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
回答者数	3	2	53	30	50	19	16	28	16	13	27	23
%	2.7%	1.8%	47.3%	26.8%	44.6%	17.0%	14.3%	25.0%	14.3%	11.6%	24.1%	20.5%



〈問5-2〉調査書の項目において、選抜（出願）に際して、削除すると支障が大きいと考える項目について（複数選択可）

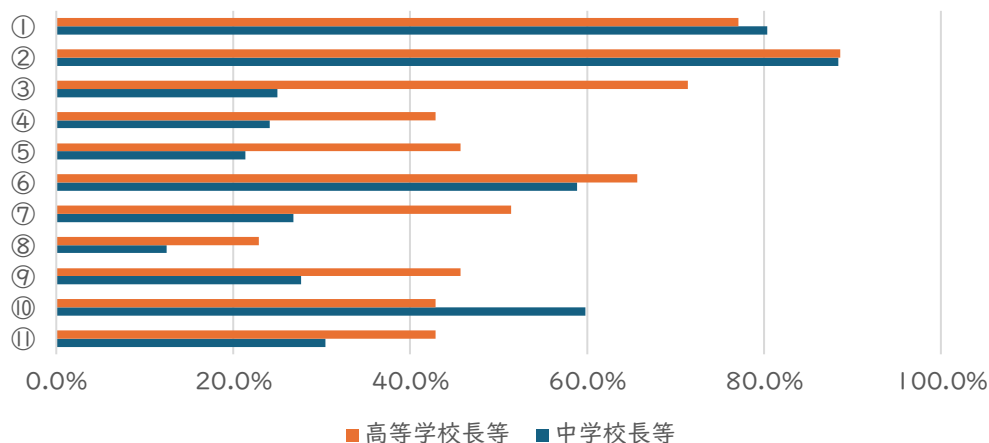
- ① 志願者について（氏名、性別、生年月日、出身中学校等、現住所）
- ② 学習の記録Ⅰ（評定、観点別学習状況）
- ③ 学習の記録Ⅱ（選択教科の評定、総合的な学習の時間の記録）
- ④ 特別活動の記録（「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の項目に○をつける）
- ⑤ 行動の記録（「基本的な生活習慣」、「思いやり・協力」等の項目に○をつける）
- ⑥ 総合所見及び指導上参考となる諸事項（記述）
- ⑦ 部活動等
- ⑧ 奉仕活動等
- ⑨ 資格・特技等
- ⑩ 出欠の記録（日数、主な理由）
- ⑪ 健康診断の記録（視力、聴力、その他）

高等学校長等（回答者数 35／複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
回答者数	27	31	25	15	16	23	18	8	16	15	15
%	77.1%	88.6%	71.4%	42.9%	45.7%	65.7%	51.4%	22.9%	45.7%	42.9%	42.9%

中学校長等（回答者数 112／複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
回答者数	90	99	28	27	24	66	30	14	31	67	34
%	80.4%	88.4%	25.0%	24.1%	21.4%	58.9%	26.8%	12.5%	27.7%	59.8%	30.4%



〈問５－３〉調査書の項目を「整理」することについての意見（概要）

高等学校長等	（期待） ・業務軽減 ・客観性の向上 （懸念） ・整理により多面的評価の材料とならなくなる可能性 ・入試制度と連動した整理 （要望） ・不要な項目はないため整理すること自体が懸念 ・項目の整理と同時に記載の在り方についても検討 ・入学後に必要な情報が引き継がれるシステムの構築 ・整理された項目を自己推薦書のようなもので受検生がアピールできる機会
中学校長等	（期待） ・業務軽減 ・客観性の向上 （懸念） ・整理により多面的評価の材料とならなくなる可能性 ・不要な項目はないため整理すること自体が懸念 ・項目の削除により送り出す中学校側としての責任が果たせなくなる可能性 （要望） ・選抜に必要な項目と入学後の指導に必要な項目の明確化（指導要録と調査書の役割の明確化） ・数値化できるものを中心に精選 ・選抜する側である高校側の意見の重視 ・私立の様式との連動・一本化 ・客観性が担保できない可能性のある項目の削除 ・調査書の整理により記載できない部分については、中学校長と高等学校長がやりとりする機会の確保 ・記載項目の集約・統合による整理 ・生徒の努力が記載できる項目の設置 ・他県の動向を踏まえた出欠の記載欄の検討 ・入試制度と連動した整理 ・高校側が評価する項目の公表 ・部活動の地域移行への対応

〈問６〉入学者選抜の改善について（全般）

入試改善全般に関する意見（概要）

高等学校長等	（要望） ・公立高校の在り方や宮崎の教育の在り方についてのグランドデザインと連動した改善 ・学力向上につながる改善 ・時期的に早期の改善 ・効率化のみを重視せず、メッセージ性のある入試改善 ・定員充足の状況から、「選抜」以外の役割の明確化 ・定員未充足への柔軟な対応（二次募集の実施等） ・web 出願の導入 ・わかりやすいシンプルな制度 ・中学校の意見を尊重した改善 ・中学校のキャリア教育に即した改善 ・高校の魅力や特色のPRの在り方についての視点を含む検討 ・全国の取組を参考にして検討 ・多様な選抜の維持 ・一人ひとりの生徒に対応した入試 ・私立高校への流出対策 ・時間をかけた検討
中学校長等	（要望） ・公立高校の在り方や宮崎の教育の在り方についてのグランドデザインと連動した改善 ・定員未充足の状況の改善、卒業予定者数と定員の連動、市内の学校の定員減 ・統廃合・新学科設置などの再編整備との連動 ・学力向上につながる改善、学習意欲の向上につながる改善 ・入試の一本化と簡略化の実現

	・全ての選抜で5教科の学力検査の実施 ・学力検査の質的な改善（単に知識を問う問題からの脱却） ・時期的に早期の実施 ・現行の推薦入学者選抜の課題を受けた改善 ・選抜方法と齟齬がない、選抜の内容がわかるようなネーミング ・不登校生に対応した改善 ・web 出願の導入 ・中学生の主体的な進路選択が促進されるような制度 ・スポーツ推薦の在り方の見直し、部活動の声掛けの在り方の見直し ・高校の魅力や特色のPRの在り方についての視点を含む検討 ・生徒の多様性に対応した高校の在り方も含めた検討 ・早期実施になった場合、合格内定後の中学校での指導の困難化への対応（高校側の協力） ・高校入試の背景が大きく変わる中で、それに対応した入試改善 ・県立高校のブランド力の向上
--	---